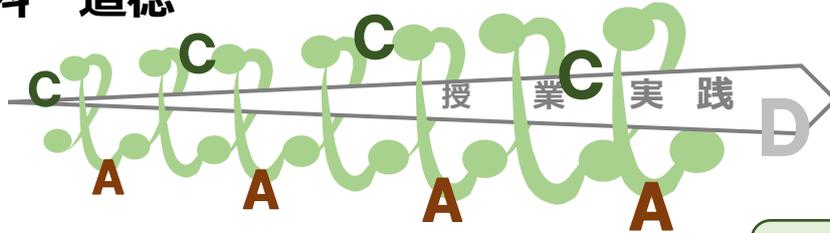


特別の教科 道徳

P 指導計画
 終末に
 「何ができるようになるか」



資質・能力が育まれ
 学校の教育目標が
 具現される。

C 「主体的・対話的で深い学び」の視点

生徒の
 つぶやきや
 様相から Check!


□Check5
 ・活動を振り返り、自分の生き方や考え方を照らし合わせて考えているか。

「これまで～と考えていたけれど、〇〇（道徳的価値）という視点で、考えていくことも大切だと思った。」

「これからは〇〇（道徳的価値）について学んだことを生かして、生きていきたい。」

□Check6
 ・これからへの思いや課題について考えているか。

「主人公の思い（考え）を支えていたのは、〇〇（道徳的価値）があったからだ。」
 「〇〇（道徳的価値）については、私は～だと思う。」

□Check4
 ・道徳的価値について考え、理解することができているか。

「こんな思い（考え）があった。」
 「悩む気持ちも理解できる。」
 「～という思いと、～という思いが葛藤すると思う。」

「なるほど、そういう考え方もあるな。」
 「どうして、そう考えるのかな。」

□Check2
 ・人物の思い（考え）について自分との関わりで語れているか。

□Check3
 ・仲間との話し合いの中で、多面的・多角的に考えることができているか。

「主人公の～な行動にはどんな思いがあるのか考えたい。」
 「〇〇（道徳的価値）について、～だと思うけどどうかな。」

考え、議論し、自己の生き方についての考えを深める道徳

□Check1
 ・教材の内容に興味や関心をもっているか。
 ・主題に関わる問題意識をもっているか。

A 授業改善のポイント

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うためには、単なる心情理解にとどまるのではなく、**Check4**にあるように道徳的価値について考え、理解することが重要です。そして、**Check5**にあるように、これまでの自分を振り返り、道徳的価値についての理解を基に、自己の生き方についての考えを深めていくことが大切です。こうした学びの過程が、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育成することにつながります。

- ☞ 1 教材の内容に興味や関心をもつには
 - ・生徒自身が、本時を何について考えていくのかという問題意識をもつことが大切です。範読が中心となりますが、劇のように提示したり、音声や音楽の効果を生かしたりするなどの工夫が考えられます。また、精選した情報を提示することで、生徒の想像をふくらませることもあります。
- ☞ 1 主題に関わる問題意識をもつには
 - ・「この資料を通して考えたいことは何か。」といった発問を通して、生徒自身が本時の主題について自覚することが大切です。
- ☞ 2 人物の思い（考え）について自分との関わりで考えるには
 - ・教師の発問は、生徒が自分との関わりで考えたり、多面的・多角的に考えたりするために重要です。生徒の思考を予想し、考える必然性や切実感のある発問、自由な思考を促す発問など、意図的な発問を心がけることが大切です。
 - ・板書は、生徒にとって思考を深める重要な手がかりとなります。違いや多様さを対比的・構造的に示す工夫、中心部分を浮き出させる工夫などが考えられます。

- ☞ 3 話し合い活動を充実させるには
 - ・話し合いの際には、「考えを出し合う」「まとめる」「比較する」など、目的に応じて効果的に話し合いが行われるように工夫することが大切です。
 - ・学級の生徒の実態や取り上げる資料の特質、他の教育活動との関連などに応じて、話し合いの形態を工夫することが大切です。
- ☞ 4 道徳的価値について考え、理解するには
 - ・授業のねらいに深くかかわる中心発問を通して話し合うことで、道徳的価値についての理解を深めていくことができます。
 - ・生徒の反応を予想し、さらに深めていくための補助発問を考えておくことも大切です。
- ☞ 5 活動を振り返り、自分の考え方と照らし合わせて考えるためには、
 - ・「分かったことや考えたこと」など、自分を見つめたときに思ったことや考えたことを文章等にまとめる時間を確保することが大切です。
 - ・教師が意図をもった説話をすることで、生徒が思考を一層深めたり、生き方の自覚につながりやすくなります。
- ☞ 6 これからへの思いや課題について考えるためには
 - ・「これからどうしていきたいのか。」「どう生きていきたいのか。」について考えることで、今後の発展へとつないでいくことができます。



ここに示したものは、あくまでも一例です。周りの同僚の実践や、学習指導要領解説編なども参考にして授業改善を図りましょう。